

別表第1（第3条関係）

国立大学法人北海道教育大学教育学部釧路校消防計画第3条に基づく災害想定

地震発生日時 令和 年 月 日
地震の強さ 震度6強
在館者数 1,000人

被害の種類	被害項目	具体的な被害の状況
建物等の基本被害	①建物構造の状況	新耐震基準に対応した建物については倒壊や崩落はないが、壁や柱に亀裂が発生し、天井板の一部が落下する。当基準に非対応の建物については倒壊や崩落が想定される。
	②外壁，窓硝子，看板等の状況	壁のタイルや窓ガラスの一部は破損落下し，建物近くを歩いていた人が負傷する。建物上部に看板等の工作物はないので，落下による被害はない。
建物設備の被害	①エレベーターの状況	エレベーターが止まり，停止階に停止できない状況が発生し，中に人が閉じこめられる。ただし，エレベーターの利用頻度は高くないので，被害はそれほど大きくはない。
	②空調・換気の状況	何らかの理由により換気装置は働かない。火災発生時には煙が館内に充満し，避難経路がわかりにくくなる。
	③ボイラー等の状況	ボイラーは地震により自動遮断する。最悪の場合，自動遮断が機能せず，配管が損傷し，燃料が漏れ出す。各種設備や電源盤等が落下，転倒，横ずれが発生するほか，漏れ出した燃料に引火し，火災も発生する。
避難施設等の被害	①扉の歪みの状況	一部の扉では歪みによる閉じこめが発生する。電子ロック式の扉では，断線により通行困難となるケースもある。
	②廊下や非常階段の状況	非常階段や渡り廊下等の外付け施設は，被害を受けやすく通常の避難経路として使えない場合が発生する。 また，内装材の脱落やガラスの散乱，転倒物等により，避難経路が塞がれ，スムーズに避難できない。
	③非常口における避難者の殺到状況	一部の非常口で，取り急ぎ出ようとする在館者が集中し，避難がスムーズに出来ない。
消防用設備の被害	①防火扉等の状況	防火扉は作動するが，周辺に落下物・転倒物が散乱している箇所があり，完全閉鎖出来ない他，自動扉が不作動となり，火災に対応できない事態が発生する。
	②消火設備の状況	一部の消火栓や消火設備が故障し，作動しなくなる。
収容物等の被害	①室内備品等の状況	室内の机・椅子，各種ボード類，パソコン等が落下，転倒及び破損することで，通行の妨げとなる。 また，転倒防止対策がされていない書棚やロッカー等がある場合は，転倒により負傷者が発生する。
	②照明器具等の状況	天井材の変形が大きい箇所では蛍光灯の照明ボックスの落下が多く見られ，床や廊下に蛍

		光管が散乱し、避難がスムーズにできない。
被害の種類	被害項目	具体的な被害の状況
ライフライン等の被害	①停電による各室の照明の状況	電気の供給が止まり、復旧に7日以上要する。
	②断水の状況	外部配管の損傷により、建物への供給が停止する。復旧に30日以上要する。 断水により、消火用水が不足した場合は、消火栓を用いた消火活動が不可能となる。 水洗トイレは、電気と水の供給停止により使用不可能となる。
	③通信の状況	外線電話においては、つながりずらい状況となり、使用が著しく困難となる。 内線電話においては、ラインが切断され、通信出来ない場合が発生する。その為、情報の錯綜や混乱が発生し、全体の状況が掴めなくなる。
	④交通インフラの状況	消防機関は、道路渋滞、道路閉鎖、同時多発の出動要請への対応等により、救援要請しても到着出来ない。又は大幅に遅れる。 周辺交通は、全面的に麻痺状態となり、帰宅困難者が増加し、付近住民・通行人等の避難依頼により、備蓄品（食料、水のほか、簡易トイレ等の各種物資）の不足が発生する。
火災等の発生	①ボイラー室	ボイラーは地震により自動遮断する。最悪の場合、自動遮断が機能せず、配管が損傷し、燃料が漏れ出す。各種設備や電源盤等が落下、転倒、横ずれが発生するほか、漏れ出した燃料に引火し、火災も発生する。
	②釧路校	管理棟2階の給湯室で火災が発生する。
	③一部の演習室	転倒した薬品庫等から化学薬品が漏れ、混ざり合い刺激臭が発生する。
人的被害	①天井の破損、照明器具の落下による負傷者	落下した天井パネル等による負傷者が発生する。
	②書棚、ロッカー等の転倒による負傷者	転倒防止対策がされていない書棚やロッカー等の転倒による負傷者や要救助者が発生する。
	③破損したガラス等による負傷者	破損した窓ガラスや蛍光管が散乱していることにより、負傷者が発生する。
	④薬品による負傷者	漏れだした化学薬品が混ざり合ったことから、刺激臭が発生し、体調不良を訴える者が発生する。 また、漏れた薬品に触れたため負傷者が発生する。